

岐阜大教育 中野刀子 後藤忠彦 ○岐阜長良東小 武藤恵津子 岐阜大  
教育附小 小島トミ

目的 家庭科教育における教授学習指導を設計するためには、現在における学習状態を総合的に把握し、その分析結果を用いた教授計画・教授内容および方法の改善を行なわなければならない。ところが、局部的な調査・分析研究はなされているが、家庭科教育にかかわる諸要因を組織的に計測評価し、その結果を用いた学習指導設計がなされていない。このため 学内、外の協力で研究プロジェクトを組織し、研究を行ったので報告する。

方法 家庭科教育に対する総合的・組織的な研究をするために、各専門分野の研究者・実践者がプロジェクトを組織し、次のような方法で行なう。

- (a) 調査評価項目の検討および学習指導設計のための基礎調査
- (b) 教授・学習過程のデータに検討された調査 評価項目および基礎資料を利用し分析する。
- (c) 学習過程の分析結果を用いて学習設計を構成・実施し、その分析評価を行なう。
- (d) 学習指導設計の評価結果を用いて、家庭科教育のシステム構成（総合的なカリキュラム）およびそのアシスメントを行なう。

結果 データの管理解析処理の構成：これらの研究目的を達成するため、今回 岐阜大 学カリキュラム開発研究センターの教授学習データ管理システム S I S - T E M III に、学習内容（技術を含む）意識調査・家庭環境その他家庭教育に関連する項目を全てデータ化し記録するファイルを作成した。その結果、前記 (a) ~ (d) に関するデータ解析および評価処理が可能となり、昭和53年度の試行をもとに本年より一連の研究を始めた。